

かわろばん

NUMBER
113

川崎異業種研究会

○発行/川崎異業種研究会 広報部 ○発行日/平成20年11月17日



定例会

6月定例会

日 時:平成20年6月12日(木)午後5時30分～8時30分

場 所:第5・6会議室

参加者:21名

内 容:理事会報告が、下記の通りあった。

- ・ 海外視察の件は10月19日～23日で計画中、7月中には募集開始希望。
旅行会社は和光大学と相談して決める。費用は20万円以下にしたい。
- ・ 7月18日の交流会参加者は13名+事務局で、総員25名の参加となる。
川異研からの費用負担は3,000円とする。19日のゴルフ場が決まり次第FAXで案内する。
今後も市内の異業種団体とも交流を図って生きたい。(会長談)
- ・ 川異研マスコットについては、商品開発委員会で、金1名、銀1名、銅3名、入選3名を決めた。
其々賞状と図書券を2万円、1万円、5千円、2千円を送ることにした。
については7月9日(水)に西岡会頭が和光大学で講演を行う(昼食12:00-12:40 講演13:00-14:00)席にて、発表をしたいので、事務局で調整をして欲しい。
- ・ 神奈川ビジネスオーディションの案内をした。
- ・ (株)ムロネの休会依頼にたいして残留をする方向で会長、菅原両氏が話を行う。
定例会では、インドネシア大使館から商務部長のトゥルス ブディアントが来所。
インドネシアのDVDを流し、「インドネシアの今」というテーマで①概要②マクロ経済の流れと規制の見直

し③投資の流れと政策④日伊の経済パートナーシップの同意事項、についての話があった。

また、10月21日から始まるエキスポについての案内があり、招待状が川異研に渡された。その後懇親会場に席を移し名刺交換を行い、盛会の内に終えた。

7月定例会(暑気払い会)

日 時:平成20年7月18日(金)~19日(土)

場 所:金型はこね荘(足柄下郡箱根町小涌谷450-24)

参加者:28名

内 容:今回の暑気払いは、川崎市内にあるNFT(New Field and new Technology Research)との交流会を兼ねて、箱根で開催した。

NFTの事務局を代表して君島川崎市産業振興財団理事長から挨拶があり、その後、参加企業より企業紹介や異業種グループに参加した理由などの発言があった。企業紹介の後、各団体の活動の一部が紹介された。

休息を挟んで懇親会が開催され、其々の団体の親睦を深め、紀中副会長の締めで会を終了した。

9月定例会

日 時:平成20年9月11日(木)午後5時30分~8時30分

場 所:第5・6会議室

参加者:15名

内 容:理事会報告が、下記の通りあった。

- ・海外視察の参加人員は16名。旅費は燃油サーチャージが決まり次第確定。
なお参加企業については1団体5,000円を目途に会から補助をすることの確認をした。
- ・和光大学バンバン先生の視察費用一部負担(5万円)について、必要な費用とみなし、支給に対しての反対者が居ない事から了解された。
- ・外部の視察参加希望者について、会社紹介、参加理由を確認し、参加了解とした。
- ・(株)ムロネの脱会について経過報告がされ、3月末に遡り手続きをすることが了解された。
- ・かわらばんの発行予定日、視察会の寄稿者の確認がなされた。
和光大学バンバン氏の協力により、インドネシア政府高官との面談予定の確認がされている。決定次第、川崎市と会議所の親書を貰う方向で調整する。
視察先のボゴール大学には、現金5万円の寄付を予定。

定例会では、和光大学経済経営学部准教授の原田尚幸氏の講演があった。

テーマは「今後重要性が増すビジネスとしてのスポーツ」であった。

- ・スポーツビジネスの持つ独自性は、ポジティブなイメージ、高い公共性、グローバル性、日常生活における親しみ易さである。
- ・スポーツ興行の現状は、チームの勝敗や活躍する選手のみに注目が集まる、ファンサービスが問われていない。
- ・スポンサーシップ、スポンサーメリットを高める必要がある。
競技場内の看板に対する認知度(目立つ、ストーリー性、日常性、キャラクター性の検討)
- ・コンテンツビジネスとして、ドラマ性やストリート性は必要だが、感動を担保することは難しいので、コンテンツ以外の楽しみを創出する必要がある。
- ・地域社会に及ぼすインパクトは、新たな文化の創出、郷土愛、地域の再発見等が考えられる。
- ・都市のイメージアップをスポーツによってすることができる。
等の話があった。

その後懇親会場に席を移し、盛会の内に終えた。

委 員 会 報 告

経営情報委員会

委員長 藤田 智

■ 6月定例会

日 時:平成20年6月18日(水)午後6時30分～8時50分

場 所:高津市民館 第1会議室

参加者:7名

内 容:

講演:「のびる会社の人材育成術」～仕事を教えてやる気にさせる人事制度作り～

講師:有限会社 シー・エヌ・オー 取締役社長 五井章雄氏

五井氏には独立直後にコンピテンシー理論のご紹介をお願いした経緯がある。

経営者の皆様は、人材育成は最も大切な課題の一つであることは十分承知しておられる。

今回は社員に明示できる「職務記述書」と「行動基準書」そのものについての説明および作成効果、作成方法を解説していただいた。

さらに人事制度への組み込み方の実例を説明していただいた。

経営者、従業員が若く、中間管理職が少ない企業はチャレンジ意欲が強く、成功確率が高いとのことだったので、是非チャレンジしていただきたい。

講演後、懇親会を行った。講師を含めて全員参加して、活発な意見交換が行われた。

■ 9月定例会

日 時:平成20年9月17日(水)午後6時30分～9時20分

場 所:てくのかわさき 第1研修室

参加者:3名

内 容:

今回は「中堅中小企業のM&A市場」について、V I D E O学習を行なった。

超高齢化社会が到来している現状においても、中小企業の世代交代が進んでいない。

M&Aを視野に入れた事業承継のあり方を学んだ。時間の都合上、M&Aの実務面の学習は割愛した。

出席者数が3名と少なかったが、それぞれ自社の現状と照合して、いくつかのヒントを得ることができた。

今回は予定していた講師が、急遽ドイツ出張となったため、急遽臨時措置としてV I D E O学習に切り替えた。

懇親会の席上では、出席者の少なさを猛反省し、年度方針に沿って活動範囲を広げ会員の皆様のご協力を仰ぐようアドバイスをいただいた。

改めて会員の皆様のご支援、ご協力をお願いする次第である。



■ 10月定例会

日 時:平成20年10月15日(水)午後6時30分～8時00分

場 所:高津市民館 第1会議室

参加者:8名

内 容:

講演:「旧東欧及びソ連・ロシアとの交流」～貿易を通じて

講師:岡崎雄隆(有限会社三岡商会 代表取締役-旧ニチポーレン株式会社専務取締役)

岡崎氏は大学卒業後最初就職した商社を退社し、縁あって社会主義国との貿易を行なう中小企業が集まって設立した会社に勤めることとなった。

氏の話によると、当初は極端な外貨不足のため、原材料を輸出し、加工品を輸入する形態のビジネスだった。この傾向は現在も変化はないが、ロシアのように輸出原油代金で潤い大層豊かになっている。旧ソ連からロシアに移るとき、西側各国から受けた借金はきれいに返済された。氏自身の関わったビジネスでも、支払が滞ったことは一度もなかった。

社会主義国ゆえ、こちらの行動は徹底的に監視されていた。そうした環境下においても、人的信用がビジネスの基礎になっており、前社を定年退職後も、独立してビジネスを継続できている。

独立後は眼科学会との交流から、医療機器の輸出がビジネスの中心になっている。彼らは、技術水準の追上げが激しい韓国、中国の製品については、厳しい評価を下している。精密機器はやはり「日本製」でなければだめとのこと。



お願い

広報部会では、皆さんの投稿をお待ちしております。

趣味の話、仕事の話、家族の話など、日頃胸の内に収めていることを、書いていただけたらと思います。

さらに、従来、好評であった、コラム「決断の時」をリフレッシュして、再開したいと考えております。現在の事業を始めたとき、親、親戚から事業を継いでくれと言われたとき、儲けすぎて笑いが止まらなかったとき、心配事が続いたとき等々、「今だから話せること」をお待ちしております。将来の出版も考えておりますので、皆さんの力作をお待ちしております。原稿の提出先は、事務局にFAXか電子メールで。

川異研メンバー募集中



川崎異業種研究会では、現在会員を募集しております。会員のお知り合いの方で、少しでも異業種交流に興味のある方をご存知でしたら事務局にご紹介下さい。なお、見学者も大歓迎ですので、ご友人等とお誘い合わせのうえ、定例会にご参加下さい。

事務局：川崎商工会議所中小企業振興部 TEL. 044-211-4114